

La Movado

Fondita en 1951 N-ro 763 septembo 2014

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ōsaka-hu, 561-0802

KJUŜUA ESPERANTO-LIGO
Tohurō minami 2-8-7, Dazaihu-si, Hukuoka-ken, 818-0105

ESPERANTO-LIGO de TYŪGOKU kaj SIKOKU
Ōgonzan-tyō 7-15, Minami-ku, Hirosima-si, 734-0041

ENHAVO

『簡明日エス辞典』ができるまで タニヒロユキ 1-2
 語尾なし単語の使い方 (21) 相川節子 2
 楽しい作文教室 (39) 塚本猛 3
 Kajero libervola: Ĉirkaŭ Esperanto-Domo de Jacugatake
 ODA Komenco 4
 対訳: 風 (1) 竹久夢二/沖恵明 5
 初期のエスペラント運動における「観光」..... 後藤斉 6
 Interŝanĝi la spertojn de Esperanto-grupoj en Japanio
 por Indonezio Reza Pahlevi 7
 第 62 回関西大会感想 綿貫健一郎、山田義 8
 追悼: 吉田正憲さん 保村翠、HARADA Tsukuru 9
 Japanaj Malnovaj Rakontoj より (9)
 山父のさと、梅木屋敷 10
 Vortaro por lernantoj (144) Laŭlum 11
 Salono: 野村忠綱 11
 La Movado: 関西大会報告書、八ヶ岳 E 館、九州連盟サイト、
 宮崎、福岡、はりま、神戸、池田、高槻 11-13
 Enigma/作文教室成績・課題 14
 Mikspoto/KLEG 事務局だより /KLEG 委員会報告 15
 編集ノート 16

『簡明日エス辞典』ができるまで

タニ ヒロユキ (大阪府)

まず『簡明日エス辞典』の作成が遅れて、関西大会に間に合わなかったことをお詫びします。

『簡明日エス辞典』は、最初「分類辞典」を編んでくれないかというお話を峰芳隆さんからいただいたのがきっかけでした。私は、竹内・タニ『エスペラント会話教室』巻末の「分類語彙集」を作成したときから、分類辞典がエスペラントにもあると便利だと思っていたので、喜んでお引き受けしました。

峰さんからは、朝比賀・石橋『エスペラント基本単語集』(白水社 1954) という古い分類単語集をいただきましたし、手許には『世英漢分類詞典』(中国世界語出版社 1989) や『实用韓日英漢分類辞典』(北京大学出版社 2005) があります。中国では、明清の昔から『華夷訳語』などの語彙集は分類語彙集が普通で、今でも分類辞典がよく出版されるのです。さらに『ロシア語モンゴル語分類小辞典』(モスクワ 2013) や英会話教材のテーマ別単語集その他も購入しました。資料が揃えば、編集は容易です。



そのとき、日エス辞典に変更したいと連絡を受けました。途中で放棄できないので承諾したのですが、これが手違いの始まりでした。日エス辞典というのはものすごく大変だったのです。

まず、語彙選定の基礎として小型の中学生用の和英辞典を用意し、中学生用語や野球用語を除いて、見出し語を書き出しました。それに「あ」から訳語を添えていき、「う」まで来たときに「わ」まで完成したときのページ数を概算した

ら、500 ページを超えることがわかりました。これでは標準の 224 ページに収めるどころではありません。訳語を添えるのは、簡潔で信頼できる A. McLinen, Pocket Esperanto Dictionary, UEA, 2001 の英語エスペラント訳を参照の中心にして、宮本正男『日本語エスペラント辞典』や PIV や、これも訳が信頼できる「ロシア語エスペラント辞典」で確認しながら添えていったのですが、このやり方では時間がかかりすぎることも明らかでした。

宮本さんの辞書(初版)は、紙が薄くてページが

めくりにくく、小さい字が詰まっいて、訳語は雑多な訳語が大量に並んでいて、簡潔で的確な訳語がどれか読み出すと時間がかかり、非常にストレスの溜まる作業です。そうやって辞書を精読していると、間違いや時代遅れな記述も見つけてしまいます（たとえば、「カフェー」の項の注）。同時に、簡明でこんなにしんどいものだから、宮本さんの苦勞がどれほどだったろうと思いやられ、そんなことを考えていると、なおさら時間が過ぎていきます。

そこで、やり方を変えて最初からやりなおすことにしました。まず、見出し語を選定してから訳語を考えるから時間がかかるのだから、訳語をもとに見出し語を選定すれば、訳語と見出し語が一度に抽出できるはずだと考えました。頻出語・重要語だけを含んでいる『簡明エスペラント辞典』の日本語訳語から日エスの見出し語を選んで書き出し、それにエスペラント原語を添え、最後に全体を「あいうえお」順に並べ替えるのです。そうすれば、『簡明エスペラント辞典』と同じくらいのページ数に収まるはず

です。こうして書き出して Excel で並べ替え、それを Word ファイルに変換した段階で、下読みの方々に見てもらい、同時にそれを InDesign に配置してページデザインし、224 ページに収まるように行間を調整し、あとは序文を書くだけとなったのが、5 月中旬でした。何とか間に合うかと思ったら、今年は関西大会は例年より早く、ページデザインの段階で自分でも大量のミスを見つけ、結局間に合わなくなりました。下読みチェックの方々からも大量の不備（ミスタイプ、書体ミス、見出し語の統合ミス、誤訳、訳語追加意見、見出し語が必要か？の意見、等々）が返ってきます。それらを反映すると、またページが収まらなくなり、問題のある見出し語は全部削除して減らしてページを収め、チェックごとに修正して完成版を作成すること 9 回にして、ようやく最終版に至ったのが 7 月中旬でした。

薄い辞書でも、辞書作りはつくづく大変です。項目一つが普通の文章の段落一つに相当する内容的比重を有し、いくらチェックしてもミスが見つかります。ともあれ、薄く安く字の大きめの簡便な辞書として、『簡明日エス辞典』が、初心者を含む一人でも多くの方のエスペラント学習のお役に立てることを願っています。

初心者のための

語尾なし単語の使い方 (21)

相川節子

本来副詞 (30) **tre**

「とても」「非常に」の意味で、入門講習の初日から 2 回目あたりに習う、本来副詞の中でいちばん基本的な単語です。使い方もむずかしくありません。

Korvo estas tre saĝa birdo.

(カラスはとても賢い鳥です)

ne tre は「あまり～でない」という意味に使われます。

La ĉambro de la hotelo estis ne tre vasta, sed komforta.

(ホテルの部屋はあまり広くないが、快適だった)

本来副詞 (31) **tro**

tre と似ています。tre は単純に程度が大きいことですが、tro の場合は「必要以上に」「あまりに」という意味が加わります。

La literoj de la libro estas tro malgrandaj por maljunuloj.

(この本の字は、老人には小さ過ぎる)

Hodiaŭ estas tro varme por okazigi ekskurson.

(遠足をするのに、今日は暑過ぎる)

形容詞の形で使われることもあります。

Troa amo de patrino povas ĝeni gefilojn.

(母親の過剰な愛は、子どもたちにとってわずらわしいこともある)

本来副詞 (32) **tuj**

「すぐに」という意味で、空間的にも時間的にも使われます。

La koncerto baldaŭ komenciĝos. Tuj venu en la halon.

(コンサートがもうすぐ始まります。今すぐホールへお入りください)

Tuj apud la domo troviĝis alta ginko.

(その家のすぐそばに高いイチョウの木があった)

形容詞の形で使われます。

Dankon por via tuja respondo!

(さっそくのお返事ありがとう)

本来副詞はこれで終わります。次号から、前置詞をとりあげる予定です。



①猫は座布団で休んでいる。

【訳例 1】 Kato ripozas sur kuseno. (CA, festo, ikona)

【訳例 2】 La kato ripozas sur kuseno. (Ĉielo, M.H., Dalpengji, Fumi)

【訳例 3】 kato kuŝas sur kuseno. (Miki)

kuseno は、座布団のように柔らかい詰め物をした袋で、弾力性を持たせた物、クッションです。枕は kapkuseno、クッション全体をすっぽり覆う袋は kusentegilo (クッションカバー) といいます。

ripozi は一定期間仕事をしないでいる、静かに横たわっているという意味です。「休む」には病気が治るという意味もあるようですが ripozi 側には無く、代わりに、死んで横たわっているという用法があります。訳例 3 の kuŝi は横になっているという意味ですが、休んでいるのが猫なので多分あたっているでしょう。ただし行頭は大文字ですね。なお、訳例 2 のように冠詞 la を付けると、話によく出てきた例の「猫」が休んでいることになります。

②彼はコンピューターゲームをしている。

【訳例 1】 Li ludas komputilan ludon. (Kiri, Eiko, festo)

【訳例 2】 Li amuzas sin per komputila ludo. (Dalpengji, Ivajo, Fumi)

【訳例 3】 Li ludas videoludojn per komputilo. (alfa)

パソコン (persona komputilo) やゲーム機 (ludkonzolo) を使って、トランプ (kartludo) や囲碁 (goo) などのゲームができます。画面内の動きにはコントローラー (regilo) を使いますが、パソコンでは通常、klavaro (キーボード) と muso (マウス) を使って動きを指示します。

「～している」については、訳例 1 のように ludi ion (遊ぶ) や、訳例 2 のように amuzi iun (楽しませる) と si (自身) の組み合わせを使うことができます。ĝui ion (享受する) は少し違う感じがします。fari ion (～をする) も考えられますが、「ゲームを作成する」と誤解されるかもしれません。

ほとんど文字だけだった昔のコンピューターゲー

ムとは違い、近年は映画のような映像をその場で作成・表示します。でも録画・再生するわけではないので、videoludo という表現には違和感を覚えます。③目的を果たすために 4 人のプレイヤーが助け合う。

【訳例 1】 Por atingi la celon kvar ludantoj helpas unu al la aliaj. (M.H.)

【訳例 2】 Por atingi la celon, kvar ludantoj helpas unu la alian. (CA)

【訳例 3】 Por plenumi la celon kvar ludantoj kunhelpas unu al la aliaj. (Fumi)

これはインターネット上のオンラインゲーム (retaj ludoj) に関する文です。3D アクションゲーム (3-dimensia agada ludo) で、複数のプレイヤー (ludantoj) が協力してゲームを進めます。

「目的を果たす」ですが、「目的を達成する」あるいは「目的の任務を果たす」のどちらかだと考えられます。訳例 1, 2 は前者の例で、atingi ion (到着する) で表現しています。訳例 3 は plenumi ion (実行する、遂行する) を使っています。後者の解釈ならば celo の代わりに celitan taskon (目的とした任務を) を使うことも考えられます。

④なんのためらいもなく、撃たれた仲間を救いに行く。

【訳例 1】 Sen ia hezito ili iras savi kamaradojn pafitajn. (M.H.)

【訳例 2】 Senhezite ni iras savi nian kamaradon pafitan. (CA)

【訳例 3】 Senhezite li ekkuras por savi sian kamaradon pafitan. (Dalpengji)

heziti (ためらう) なので、訳例 1 のように sen ia hezito にするか、kun nenia hezito にすることもできます。訳例 2 は一語で senhezite (ためらいなく) を使っています。この場合、すぐに行動に移す感じがあると思います。日本語では主語が明示されていませんが、ili や oni、自分が参加しているとして ni や mi も考えられます。

pafi (撃つ、射る) を pafita (撃たれた) として使います。pafinta (撃った) は立場が逆です。「仲間」ですが、kamarado (仲間) には気安さ、なれなれしさがあり、kolego (同僚) には友情があるという意見もあります。なお、この場合の「救う」は helpi (手伝う) ではなく、訳例のように savi を使います。

成績と 11 月号の課題は 14 ページ

カラマツに囲まれたハケ岳エスペラント館はすばらしく、近くには旧石器や縄文時代の遺跡がある。

Mi tre ŝatas la Esperanto-Domon de *Jacugatake*. Mia hobio estis montogrimpado, sed antaŭe mi ne ofte vizitis la montojn *Jacugatake*. Tamen nuntempe mi ĉiujare vizitis la domon, de kiam mi eklernis Esperanton antaŭ kvar jaroj.

En tiu ĉi junio mi sola loĝis en la domo dum nokto, kaj promenis ĉirkaŭe disde la fonto *Sanbuiĉi* al la fonto *Metori*, kie ŝprucas mil tunoj da akvo tage, kaj al la ruino *Kinsei*. En la sekvanta tago kolektiĝis dekdu personoj por la kunveno de koresponda kurso. Ni ekskursis al la akvofalo *Ŝamisen* kaj la monto *Meŝimori*, lernis Esperanton, babilis kaj trinkis.

Mi intresiĝas pri la japana historio kaj vizitis la ruinojn ĉirkaŭ la domo. Kvar kilometrojn sudoriente de la domo troviĝas la ruino *Kinsei* de la epoko *Ĵomon* ĉirkaŭ tri mil jarojn antaŭa. Tie troviĝas rekonstruitaj domoj kaj ŝtona aranĝaĵo kiel ŝtona cirklo, kiu probable estis farita por religia festo aŭ tombejo. Unu kilometrojn norde situas la muzeo de la urbo *Hokuto*, kiu havas tiamajn tervazojn kaj terpupojn. Fama estas tervazo kun vizaĝoj de patrino kaj ŝia bebo naskiĝanta.

Proksime al la stacidomo *Nobejama* troviĝas la ruino *Jadegaŭa* de la praŝtona epoko ĉirkaŭ dek mil jarojn antaŭa. Tie oni trovis multe da pecetoj el obsidiano kaj kristalo sur la agrkampoj en 1953. Kelkaj malgrandaj kaj akraj pecetoj estis ligitaj al ligno aŭ osto por fari tranĉilon, sagon aŭ lancon. Per tio oni povis facile porti ilojn kaj ŝpari altvarolajn ŝtonojn. Kvankam tiu tipo de ŝtono estis trovita nur en Siberio, ĝi estis unue trovita ĉi tie en Japanio.

2014.9

Apud la la stacidomo troviĝas muzeo.

Proksime al la staĉidomo *Ŝinanosakai* estas la ruino *Idoĵiri*, kiu havas riĉan fonton por trinkakvo. En la muzeo ni povas vidi misterajn tervazojn kun la figuroj de rano, serpento, luno, vizaĝo ktp, kiuj eble montras tiaman kredon. La pejzaĝo rigardi la montaron *Akaŝi* disde la ruino estas mirinda.

La ruino *Togariiŝi* situas sur la okcidenta montopiedo de la montoj *Jacugatake*. Dum la epoko *Ĵomon* troviĝis multaj vilaĝoj en tiu ĉi regiono eble pro abundaj bestoj, nuksoj kaj obsidianoj. Kelkaj vertikaltruaj domoj estis prezentitaj per rekonstruado. En la muzeo oni povas vidi unikajn tervazojn kaj terpupojn nomatajn "*Ĵomon*-a Venuso" kaj "*Maskita Diino*", kiuj estas naciaj trezoroj.

Norde de la lageto *Ŝirakaba* troviĝas la ruino *Takajama*, kie oni elfosis obsidianojn dum la epoko *Ĵomon*. Tie sur la tero oni povas vidi pecojn de obsidiano elfositajn. La nigra kaj akra ŝtono estis uzita por fari tranĉilon ktp. La ŝtonoj estis portitaj eĉ al la nuna Tokio por interŝanĝo de valoraĵoj.

Fine mi prezentos kelkajn Ŭakaojn (japana mallonga poemo) faritajn en la domo jene.

En la land' *Kahi*
al larika arbaro
riĉe sonoras
la Esperanta kanto
el *Jacugatake*-Domo.

Ugviso flugas
kantante ĝojege
tra la verda arbaro.
Mola estas nia vojo
el dikaj mortfolioj.

Unu folio
falante de arbego
lante kaj silente
sekrete montras al mi
la finon de somero.

風

(1)

竹久 夢二

風が、山の方から吹いて来ました。学校の先生がお通りになると、街で遊んでいた生徒達が、みんなお辞儀をするように、風が通ると、林に立っている若い梢も、野の草も、みんなお辞儀をするのでした。

風は、街の方へも吹いて来ました。それはたいそう面白そうでした。教会の十字架を吹いたり、煙突の口で鳴ったり、街の角を廻るとき蜻蛉(とんぼ)返りをしたりする様子は、とても面白そうで、恰度(ちょうど)子供達が「鬼ごっこするもん寄っといで」と言うように、「ダンスをするもん寄っといで」といいながら、風の遊仲間(あそびなかま)を集めるのでした。

風が面白そうな歌をうたいながら、ダンスをして躍廻(おどりまわ)るので、干物台のエプロンや、子供の着物もダンスをはじめます。すると木の葉も、枝の端で踊りだす。街に落ちていた煙草(たばこ)の吸殻も、紙屑(かみくず)も空に舞上って踊るのでした。

その時、街を歩いていた幸太郎という子供の帽子が浮かれだして、いつの間にか、幸太郎の頭から飛下りて、ダンスをしながら街を駆けだしました。その帽子には、長いリボンがついていたから、遠くから見るとまるで鳥のように飛ぶのでした。幸太郎は、驚いて、「止れ!」と号令をかけたが、帽子は聞えないふりをして、風とふざけながら、どんどん大通りの方までとんでゆきます。

一生懸命に、幸太郎は追っかけたから、やっこのことで追いついて、帽子のリボンを押えようとする、またどっと風が吹いてきたので、こんどはまるで輪のようにくるくると廻りながら駆けだしました。「坊ちゃん、なかなかつかまりませんよ。」

帽子が駆けながらいののです。(続く)



desegnis GOTO Miwa

Vento

(1)

de TAKEHISA Yumezi

tradukis: OKI Keimei

Vento alblovis de monta direkto. Ĉiuj, kaj pinto de junaj branĉoj de arboj en arbaro kaj kampaj herboj, klinis sin kiam vento alblovis al ili, kiel ĉiuj lernantoj, ĵus ludintaj en strato, klinas sian kapon al instruisto de sia lernejo kiam la instruisto estas preterpasanta ilin.

La vento blovante venis ankaŭ al urbeto. Ĝi aspektis kiel tre amuze ludanta. Ĝi jen blovis kructuron de sanktejo, jen sonis ĉe buŝo de fumtubo, kaj jen faris transkapiĝon kiam ĝi turnis sin ĉe angulo de strato. Tiaj movoj ŝajnis tre amuzaj. Ĝuste kiel knaboj diras: "Kiu volas ludi tuŝludon, tiu venu al mi," ĝi estis kolektanta ludkamaradojn de ventoj, dirante: "Kiu volas ludi dancon, tiu venu al mi."

Kaj antaŭtuko kaj vestaĵoj de infanoj en surtegmenta vestaĵosekigejo komencis danci, ĉar la vento kantis interesan kanton kaj dancis tie kaj ĉi tie. Kaj folioj ekdancis ĉe branĉofinoj. Ankaŭ cigaredostumpoj kaj paperruboj sur strato leviĝis ĉielen kaj dancis.

Tiam ĉapelo de la infano *Kôtarô* (kootaroo) ekgajiĝis, malsuprensaltis de lia kapo, nerimarkite de li, kaj dancante kuris tra strato. Se oni de malproksime vidus la ĉapelon, oni juĝus ke la ĉapelo flugas kvazaŭ birdo, ĉar ĝi havis longan rubandon. "Haltu!" Li, surprizita, ordonis al ĝi halti, sed ĝi ŝajnigis sin ne rimarki lian ordonon kaj petole ludante kun la vento vigle flugis ĝis vasta strato.

Ĉar kun granda peno *Kôtarô* postkuris ĝin, li fine atingis. Kiam li provis kapti la rubandon de la ĉapelo, refoje ventis forte. Ĉifoje la ĉapelo turnante sin ekkuris kvazaŭ ringo.

"Kara knabo, vi ne povas facile kapti min."

La ĉapelo kurante diris.

(daŭrigota)

初期のエスペラント運動における「観光」

後藤 齊 (宮城県)

昨年『日本エスペラント運動人名事典』を刊行したが、ただ情報を機械的に集めて配列してできるものではない。大部な本を編纂するには情熱が必要だ。峰芳隆さんや柴田巖さんにもそれぞれの思いがあったらう。私としては、一つにはエスペラントを実際に使った人にしかるべき敬意を払いたかった。実用のなかで観光は際立った位置づけにある。

1887 年にエスペラントが提唱されてから少し経つと、それを国際語として実用する動きが現れた。1889 年に創刊された "La Esperantisto" 誌の 1894 年 12 月号の個人広告からは、エスペラントを介して共通の関心を持つ人がつながろうとし、あるいは情報や便宜を提供しようとする試みが垣間見えている。現在のデレギート網やパスポルタ・セルボの萌芽とも考えられそう。

日本では、日本エスペラント協会の "Japana Esperantisto" 誌には、ヒゲタ醤油や帝国ホテルの広告が掲載されることがあった。後者は会員で帝国ホテル支配人の林愛作による。

初めて来日した外国人エスペランティストは、1909 年に修学旅行で東京などを訪れたウラジオストクのエレデルであった。初めてエスペラント目的で外国旅行した日本人は、1915 年にハルビン、ウラジオストクを旅行した高橋邦太郎と中目覚(あきら)である。ロシア極東などのエスペランティストとの交流は初期の日本人エスペランティストにとって、滞日外国人との交流とはまた別に、大きな刺激であった。ロシア側ではコスチン、カジ=ギレイ、ヴォナゴ、パブロフなどの名が知られている。

語学書や普及書以外で日本初のエスペラント書は、高橋邦太郎が 1914 年に原田勇美の世界語書院から刊行した鉄道院原版の写真集『日本風景民俗写真帖』エスペラント版である。写真が中心であって文字はそれほど多くはないが、本文は基本的にエスペラントであり、海外の読者が念頭に置かれていた。おもしろいことに、巻末には鉄道省や南満洲鉄道、朝鮮鉄道などによる旅行者向けのエスペラント文広告が掲載されている。

これらの例から見られるように、観光は初期からエスペラントの実用目的として日本でも実践され、

あるいは目標に掲げられていた。

柳田國男がエスペラントを学んだことは比較的知られているが、それだけでなく、ジュネーブで地元のエスペラント会に参加して、自宅を会の催しに提供して沖縄の話をするなど、実際に使っている。

さらに、柳田は 1923 年 4 月ベネチアでの「商業共通語に関する国際商業遊覧業会議」の開催に協力し、「傍聴」した。その際にエスペランティストと市内観光をして、その記念写真を「夢のやうな記念」と佐々木喜善に送った事実は、柳田におけるエスペラントの意味を理解する上で注目に値する。

井上万寿蔵は鉄道省に入り、1931～33 年には観光事業研究のために欧米に派遣された。のち鉄道省の外局の国際観光局に移って観光を本業とし、さらに日本初の観光学の概説書『観光読本』(1940)によって観光を定義づけして、産業や行政の中に位置づけるのに貢献することになる。

井上は鉄道・観光関係の職務をエスペラントとうまく結びつけた。鉄道省刊行の "Gvidlibreto por Japanlando"(1927) は、本文 100 ページほどの分量の日本案内書で、写真や地図も豊富だ。実際にだれが執筆・翻訳したのか、知りたいところだ。

同じく鉄道省発行の冊子 "Japanujo"(1935) では矢島英男が、南満洲鉄道の "Ek al Manĉukŭo"(1937) では大谷正一が翻訳や刊行にあたった。

池川清は大阪市職員として福祉分野で働くが、ヨーロッパに派遣されて観光への関心も高めたようだ。38 年日本観光エスペラント協会なる組織を立ち上げた。また、東京オリンピック (1940 予定) を前にして大阪観光案内 "Venu al Osaka"(1938) の刊行にも伊藤幸一らと尽力した。

林好美は、日本で初めてヨーロッパへエスペラント観光旅行 (1928 年) をした人物として記憶にとどめたい。

エスペラントによる世界旅行の途中で日本を訪れた外国人もいた。マランが旅行中に集めたスタンプ帳はこれだけでもおもしろいだろう。チャイレはあまり知られていないが、上海での歓迎会には魯迅も出席している。

この時代にエスペラントによる観光はだれにでも身近なものであったわけではないが、それでも多くの人がエスペラントを観光に活用しようとした。このことは現在の私たちにもエスペラントの可能性の大きさを感じさせてくれる。

Interŝanĝi la spertojn de Esperanto-grupoj en Japanio por Indonezio

Reza Pahlevi (Indonezio)

Esperantistoj de Kansajo kaj Kantoo invitis min por partopreni en kongresoj. Ĝi estis mia unua ŝanco por viziti Japanion. Mi uzis ĉi tiun ŝancon por lerni la Esperanto-movadojn en urboj, kiujn mi vizitis.

La unua kongreso estis La 62-a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo. La kongreso okazis en *Himeji*. La kongreso okazis de Sabato, 31-a de Majo, ĝis Dimanĉo, 1-a de Junio. En Sabato, 31-a de Majo, antaŭ la programo de la kongreso, mi kaj esperantistoj vizitis la faman kastelon en *Himeji*. Ĝi estis mia neforgesebla sperto.

Mi havis ŝancon por paroli en la malferma soleno de La 62-a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo en *Himeji*. La partoprenantoj de kongreso en la malferma soleno estis multaj. La partoprenantoj de kongreso ne nur estis el Kansaj-regiono, sed ankaŭ estis el aliaj regionoj de Japanio.

En Dimanĉo, 1-a de Junio, mi ankaŭ havis ŝancon por paroli en kongreso por prelegi pri movadoj de Esperanto en Indonezio, kaj speciale en la urbo *Medan*. Estis multaj esperantistoj, kiuj demandis pri Esperanto-movado kaj problemoj por esperantistoj en Indonezio. En la sama tago, mi ankaŭ partoprenis unu el la programoj en kongreso por ludi kun komencanto-esperantistoj kaj infanoj. La ludo estis pri esperanto-vortoj. Mi ankaŭ estis feliĉa partopreni en tiu programo de la kongreso.

Post kiam mi partoprenis la kongreson, mi veturis al Oomoto-centro en la urbo *Kameoka*. Mi iris al tiu loko kun esperantistoj en la urbo *Kameoka*. Mi tranoktis en tiu loko kaj vidis la kulturon de Oomoto kiam ili preĝis, kaj la historion de Oomoto. Oomoto estis unu el la religioj en Japanio, kiu sugestis la oomotanojn

por uzi ĉi tiun neŭtralan kaj pacan lingvon, Esperanto.

En Lundo, 2-a de Junio, mi veturis al Kioto. Kun esperantistoj de Kioto, mi estis invitita por viziti Esperanto-Domon en Kioto. En tiu urbo, ni diskutis pri Esperanto-movado en tiu urbo kaj en Indonezio. En la sekva tago, Mardo, 3-a de Junio, mi partoprenis diskuton kun Uĵi-Ĵoojoo-Esperanto-Rondo. Uĵi-Ĵoojoo-Esperanto-Rondo estis unu el la Esperanto-grupoj en Kioto.

Post kiam ni bone diskutis kun grupoj de Esperanto en urboj en Kansaj-Regiono, mi veturis al Tokio en Merkredo, 4-a de Junio. Mi vizitis al Esperanto-Domo en Tokio. En tiu loko, mi renkontis kun membroj de Esperanto-Rondo de *Sinzyuku*. Esperanto-Rondo de *Sinzyuku* estas unu el la Esperanto-grupoj en Tokio.

En Jaŭdo, 5-a de Junio, mi kaj esperantistoj de Tokio vizitis Metropolan Artmuzeon de Tokio. Post tiam mi diskutis kun Tokia Esperanto-Klubo (TEK) vespere. En Sabato, 7-a de Junio, kiam la 63-a Esperanto-Kongreso en Kantoo okazis, mi kaj partoprenantoj de la kongreso vizitis Muzeon de *Edo-Fukagawa*. En ĉi tiu muzeo estis konstruaĵoj en *Edo*-Epoko en Distrikto de *Fukagawa* en Tokio. En la kongreso ili ankaŭ estis tre entuziasmaj pri Esperanta Movado en Indonezio.

Mi akiris la spertojn pri kulturo, bonega panoramo, kaj Esperanto-Movado en Japanio. Ĝi estis mia motivado por evoluigi kaj fariĝi la esperantan grupon en mia urbo kaj lando. Mi deziras ke ĝi fariĝis la motivado por esperantistoj en Indonezio, do ni povas evoluigi la Esperanto-movadon en ĉiu urbo en Indonezio.



en kunveno en la urbo Uĵi

楽しさと緊張と

綿貫健一郎（東京都）

よく思うのですが、合宿と大会の違いはどこにあるのだろうか？と、企画、運営される方のご苦労を棚にあげて純粋に単なる参加者としての感想では、合宿はそれなりに学習する必要があるので、ちょっと肩がこる、大会は見るだけ、聴くだけでも済むのでリラックスしてエンジョイできる、ということでしょうか？ それから、大会には対外的広報としての役割もありますね。この意味でも今回の関西大会は大きな成果を収めたと思います。

では、大会と合宿の共通項は何かと言えば、志を同じくする新旧の友と出会い、語り合う、に尽きますね！ 今回の関西大会では、25年ぶり以上に何名かの関西在住の旧友と邂逅する機会に恵まれました。エスペラントを通じての友人というのは、かつての同級生と同じで、利害関係なしで思いっきり語りあえます。同時に今回は関西で活躍されている何人もの素晴らしい方々と知り合いにもなれました。

それから、日本大会や地方大会には、普段はまず行かない場所に赴いて同時にその地の観光も楽しませてもらう、というメリットもあります。今回の関西大会でも、我々夫婦にとっては十分にエキゾチックな姫路の町の雰囲気を楽しむと同時に、姫路城もゆっくりと見学させていただきました。

大会の運営は、tre bone organizita でした。事前にいただいたチラシや書類からも準備に従事されている皆様の熱意を感じ取ることができましたが、現地に着いてからもボランティアの方々が懇切丁寧に体を動かされている姿がまず目をひきました。

会場は姫路城のすぐ目の前に位置している近代的なコンベンショナル・センターという感じで、大会全体の雰囲気を明るくしていました。この場所を確保された準備委員会の苦労がしのべれます。

大会はリラックスして楽しめる、と書きましたが、実は我々夫婦は大会そのものは楽しませていただいた一方、最後まで緊張していました。妻アレクサンドラが大会の最後の公開プログラムで講演し、その通訳を自分が務める事になっていたの



大会でわたしが手伝ったこと

山田 義（愛知県）

姫路の大会の準備とプログラムに私も一部を担うことができうれしかった。毎回、関西大会や日本大会では、甲子園の前川治哉さんがエスペラント入りのフレーム切手や封筒やハガキを作り頒布している。近くの郵便局に事前に頼み込んで大会名の入った記念の当日だけに使う消印を作らせ出張出店させている、これも前川さんや大会の組織委員会との協働の結果である。発行する切手やハガキ、封筒、郵便局の消印の作成には私もパソコン出力で手伝った。一年前から打合せて姫路の大会を思い描きながらの仕事だった。

開会式の La Espero と閉会式の La Tagiĝo の指揮をするように頼まれていた。ピアノ伴奏者の中村雅子さんと打ち合わせた。ピアノがリードしてくれることになり、私は手を振っているだけ、会場を見渡すと指揮者を見て歌っている人は少ない、2番になると歌声も弱くなり楽譜に首ったけだ。会場の中には、テンポが落ちてきたぞ、と盛んに大きな腕で合図を送ってくれる人もいた。だから閉会式ではもっぱら私も一緒に歌うことにした。今回のように舞台には伴奏者と指揮者だけでなく、楽譜なしでしっかり歌える人たちが自由に上って来て、舞台と会場を盛り上げたいものだ。

Gaja Vespero では男声一人だけだったが一緒に加わり 4 曲を浅田和子さんの指揮で歌って楽しかった。あとで写真を Facebook に投稿してくれた人もあり、エスペランティスト以外の友達に私の活動を見てもらえた。

私にとって今年の大会はエスペラントで話す機会が少なかった。1、2の人とはあいさつしたが、エスペラントで話しかけることを忘れていた、日本語がどこでも充分に通じるエスペラント大会だった。

す。妻もかなり入念な準備もしていましたが、通訳の経験が皆無に等しい自分も3回ほど事前練習をしました。結果はヒヤヒヤものでした・・・？

ともあれ、今回は夫婦で御招待いただくという光栄に恵まれ、感謝の至りです。来年の京都大会にもぜひとも参加させて頂きたいと存じています。

El "Japanaj Malnovaj Rakontoj"
de YANAGITA Kunio
柳田國男作「日本の昔話」より (7)

Fraŭlino Ugvisa (鶯姫)



Antaŭ longa, longa tempo unu maljunulo loĝis en la provinco *Suruga*. Li estis nomata Maljunulo Bambuisto aŭ Maljunulo Ventumilfaristo, laŭ arkivoj, ĉar li sin vivtenis per la metio: haki bambuojn en monto, fari el ili diversajn ilojn kaj ventumilojn.

En iu tago ĉi tiu Maljunulo Ventumilfaristo iris en bambuaron kaj trovis ke en nesto de ugviso unu ovo briladis okulfrape kun aparta lumo. Dum li alportis ĝin plej zorgeme tenatan kaj konservis en sia domo, la ŝelo nature kreviĝis kaj el ĝi aperis tre malgranda sed bela knabino. Li nomis ŝin Fraŭlino Ugvisa, ĉar ŝi estis naskita el la ovo de ugviso, kaj li ŝin edukis kiel sian filinon.

Ŝi pli kaj pli kreskadis kaj baldaŭ fariĝis belega knabino komparebla kun neniu kaj tiel brilegis ke oni donis al ŝi nomon Princino *Kaguya* (Brilanta). De tiu tempo okazis ke en

ĉiu internodaĵo de bambuo hakita de li ĉiam li trovis orpecojn plenplenaj, kaj li, antaŭe tre malriĉa, en mallonga tempo fariĝis granda ĉoĵo.

Multaj venis al la bela knabino de la ĉoĵo por sin svati, sed ili ĉiam ricevis malfacilan enigmon de la ĉoĵo kaj lia filino, kaj senkapablaj solvi tion ili embarasite reiris al sia hejmo. Lia Mikada Moŝto, kiu tiam estis sur la trono, aŭdis ke ŝi estas brileganta belulino, kaj profitante sian ĉasvojaĝon honoris ilin per sia vizito al ili. Kaj li provis ŝin persvadi ke ŝi iru al la ĉefurbo kaj fariĝu lia edzino; ŝi tamen, oni ne sciis kiel ŝi pensas, forrifuzis ankaŭ ĉi tion.

Oni diras ke en la vespero de la dekkvina de aŭgusto en ĉi tiu jaro, kiam la lunlumo estis la plej klara kaj serenigis la tutan ĉielon, venis blanka nubo al la domo de la ĉoĵo por konduki ilin al la ĉielo, kaj Princino *Kaguya* kun sia patro foriris de la monto *Huzi* al la ĉielo. Tiam ŝi omaĝis al Lia Mikada Moŝto iuspecan drogon de senmorteco kun aldonita jena utao:

Nu, jam adiaŭ!

Al Via Moŝt' Mikada
mi simpatias,
dum kun la vest' ĉiela
mi staras preparata.

Oni diras ke Lia Mikada Moŝto multe afliktiĝis antaŭ tiu utao; kaj li diris ke la drogo de senmorteco estas jam tute senutila por li, kaj li ordonis, ke oni alportu ĝin sur la supron de la monto *Huzi*, la plej proksiman al la ĉielo, kaj bruligu ĝin tie. De tiam oni ekhavis legendon ĝis multe pliposta generacio, ke la brulado sur la supro de tiu monto nomata *Huzi* (senĉeso aŭ senmorteco), estas dumlonga restaĵo de la fumo, kun kiu oni bruligis la drogon. (Miyamoto masao)

☆ Ugviso: birdo kun bela kantado, kiun oni foje tradukis 'najtingalo', sed ilia esenco tute diferencas: *Horeites cantans cantans*.

☆ La monto *Huzi* nun estas dormanta vulkano.



韓国のエスペランチストに 出会う

庄山美喜子 (熊本県)

3月中旬、韓国での「戦争と女性の人権ツアー 4日間」に参加した。その後、私のエスペラントの先生とその友人のお世話

で、ソウルのミンミンさんとドウミナさんのお宅に3日間泊めて頂いた。ミンミンは韓国エスペラント協会の職員で社会学と言語に関心を持っているようだった。ドウミナは健康と医学に興味があるようだった。ようだったとしか書けないのは、まだエスペラント語が良く解らず推測で受け取っていたからだ。エスペラントを学び始めてまだ半年、呑気な私も会う日が近づくにつれ、この程度の学習では折角出会うにも失語症になるに違いない、相手の方に悪いなあと胃が痛くなった。ところがホームステイ先のミンミンさん、ドウミナさん共に勤が良い。とても親切で穏やか。私のめっちゃめっちゃなエスペラント語を理解して下さるし、その上褒めて下さる。深い話はもちろんできないが、お互いの思いは伝わった気がする。

私が定年まで図書館司書だったことを伝えると、リプロさん他2名の方が待っていてソウル市民図書館（旧市庁舎で資料館を兼ねていてソウルの精神理念が良く解った気がする）を案内して下さいました。また地方都市に出かけ韓国、ドイツ、日本人が集い英語、ハンゲル、ドイツ語、エスペラント語が飛び交う中、湖畔を散策し、歌を歌い、ミュージアムを訪ね、夜はペンションでバーベキューをしながらワインを飲み、語り合ったのも不思議な時間だった。

帰国して2週間後、小倉での第24回国際エスペラント合宿に参加した。日本人はもちろん、韓国、中国、オーストラリアの熱心な学習者に圧倒されながら楽しい2日間を過ごした。もっと話せば・・・の思いを強く持った合宿だった。

私はいつも希望のあるところに向かっていこうとする習いがある。エスペラントを学び始めたのもその一つだ。見も知らぬお互いを受け入れ希望を語り合えるのもエスペラントという共通言語があるからだ。

私のエスペランチストとしての活動はまだ始まったばかり、皆様どうぞよろしく願います。

2014.7

初心者のための

語尾なし単語の使い方 (19)

相川節子

本来副詞 (27) **plu**

「さらに続けて」「さらに先へ」という意味の副詞です。時間的な「先」にも空間的な「先」にも使うところは、日本語と同じです。

Ni iru plu laŭ la rivero.

(川に沿って、もっと先まで行こう)

Zamenhof laboris plu por plibonigi sian lingvon.

(ザメンホフは自分のことばを改良するためにさらに作業を続けた)

plu は初心者には使いにくい単語に見えますが、実は ktp. または kaj tiel plu という形で 本でも雑誌でもよく出会っています。kaj tiel plu を直訳すると「そして、同じように、さらに」となります。つまり「その他いろいろ」ですね。

最近では, plusendi という合成語をたびたび目にします。電子メールでエスペラントを使う方ならおなじみかもしれません。「さらに先へ送る」つまり「転送する」という意味です。

Mi plusendas al vi ret-leteron de s-ro Kimura.

(木村さんの電子メールをあなたに転送します)

似たような合成語に, pludoni があります。自分が受けとった物や情報を、さらに次の人に渡すことです。“Vojaĝo kun Katrina” という本に、教師の Katrina がひとりの生徒からある知らせを受け、それをクラス全員に伝える場面があるのですが, Katrina pludonas tiun informon al siaj lernantoj … と書かれています。余談ですが, Katrina シリーズ3冊のうち、個人的にはこの物語がいちばん好きです。

ザメンホフの用例を見ると, plu は否定文でよく使われています。ne や neniam など、否定の表現をとまなう時は、「この先は～ではない」「これ以上は～しない」という意味になります。

…mi petas vin, ne nomu min plu “majstro”…

(今後わたしを majstro と呼ばないでください)

第8回世界大会での、ザメンホフの演説です。実は前後に長い文があるのですが, plu がある部分だけを抜き出しました。

ザメンホフはこの大会を最後に、エスペラント界での公的な立場を辞退し、開会式での演説もやめました。

KER 試験受験記

木元 靖浩 (奈良県)

この度 KER (Komuna Eŭropa Referenckadro) 試験を受験した。言わば「EU 共通外国語能力検定試験—エスペラント語」。レベル B2 で受験料は現在のレートで 5,565 円。3 時間。(私には足りないぐらいであった。)

受験に先立ち、受験勉強をした。苦手な前置詞である。Mi partoprenas en . . . はわたし的には al だと思うが郷に入れば郷に従え。en に妥協しよう。しかし、何で Mi petas de vi なんだろう。頼むのは相手に向かってだろう。相手から私が頼む?。Morto rabis al ni multe el niaj . . . 私に向かって奪う?。私から奪うのじゃないの。一体ザメンホフの頭の中は、いや、欧米語使用者の頭の中はどうなっているのか。この辺りを腑に落とし込まないと KER 試験には勝てない。で、参考書を探して KLEG を訪ねた。一冊あった。「エスペラント前置詞略解 小坂狷二」である。買って少し読んだ。しかし山は外れた。接尾辞・接頭辞が出た。まあいい。どうせ勉強しなかったのだから。

さて、辞書はエスペラント—エスペラント辞書のみ持込み可である。勉強しない私も 2 冊持っている。一冊は Plena Ilustrita Vortaro de Esperanto kun Suplemento。外観は日に焼けて古色を生じている。しかしページを開けば手の切れるような真っ新である。もうひとつは、小さな Plena Vortaro de Esperanto。昔、大本の合宿に行ったとき、今は亡き三ツ石清さんの授業で「この辞書は小さいから散歩にも持って行ける。眠たくなってそこらで横になる時、枕にもなるから便利だぞ。」との勧めで買ったものである。試験場で開いたら何と読めない。字が小さすぎる。当時は読めていたのに。

試験問題はこんな感じ。あなたはエスペラント大会に参加して mantelo を忘れてきた。それを rehavi したい。実行委員会に手紙を書きなさい。或いは、文中の空欄に単語があるがそれに接尾辞・接頭辞を付けて意味の通じる文に仕上げなさい。また、例文がありそれを説明するそれぞれの文の正否を答えなさい。等々。つまり、社会人になって散々受けたマークシート式の試験(防火管理者とか衛生管理者とか)ではない。学校にいた頃の試験である。数十年ぶりに体験出来て何やら懐かしい思いをした。

就職の際、履歴書を書き資格欄には何やら書く。これは何らかの意欲があり、成就する根性がある(あるいはあった)証明のようなものである。KER 試験

の能力検定など最適だ。面接の際、このユニークな検定試験について面接官との会話が盛り上がり好印象を与え、就職が成功する。よって、就職を目指す学生たちにより KER 試験には門前市をなして然るべきだと思う。まあ、無理かな。

Esperanto-Seminario, Yumenosima

KIRIYAMA Masaaki(Ôsaka)

Mi partoprenis en la 47-a Esperanto-Seminario, Yumenosima, kiu okazis de la 3-a ĝis la 5-a de majo. Seminariejo estis "Tokia Sporta kaj Kultura Domo," kiu staras proksime al la stacidomo *Ŝinkiba* en Tokio.

35 personoj partoprenis en ĝi kaj 4 klasoj estis aranĝitaj, nome Elementa, Meza, Meza kaj Alta, kaj Memstara. Mi lernis en la Meza Klaso, kies instruisto estis sinjorino *Aleksandra WATANUKI*.

En la klaso 11 personoj partoprenis, kaj ni havis 5 fojojn da lecionoj. *Aleksandra* klare kaj zorgeme instruis al ni gravajn vortojn kaj esprimojn, kiuj estas necesaj por ĉiutaga reala vivo, ekzemple pri vetero, parto de korpo, en la kongresejo, hobbio, kaj tiel plu. Oni ne nur respondis pri demandoj de *Aleksandra*, sed ankaŭ prezentis sian partneron al ĉiuj klasanoj, konversaciis pare supozante iun scenon, enketinte prezentis sian rezulton. Per tiuj ĉi variaj programeroj ni gaje kaj ĝoje lernis praktikajn kaj efikajn esprimmanierojn.

En la dua tago posttagmeze ni ekskursis en la Parko *Yumenosima*. Ni promenis malrapide, ĝoje rigardante belajn florojn kaj tropikajn arbojn, babilis kaj fotis. Samtage ni havis la Gajan Vesperon, kaj ĝuis kvizon, muzikon, kaj ludon.

Mi povis havi tre utilajn tagojn, ĉar mi preskaŭ ne havas ŝancon aŭskulti kaj paroli Esperanton vid-al-vid en kutimaj tagoj. En la klaso oni uzis nur Esperanton, kaj eĉ en la restoracio, en la dormoĉambro, oni klopodis paroli plejble esperante. Mi kore sentis, ke mi ja estas en esperantujo. Mi certe partoprenis en la venontjara seminario, kaj volas, ke pli multaj junuloj kaj alilandanoj partoprenu en ĝi.

spegulo: Glata brila surfaco de vitro k.s. kiu reflektas lumradiojn kaj donas bildojn de objektoj.

*Dormemas tuta la naturo,
La lag' ebenas kiel spegulo.
Rebrilas en ĝi vesperruĝo
Kaj kampofajro sur l' insulo.*

sperta: Posedanta sciojn el praktikado kaj observado kaj kapabla uzi ilin.

*Kiu estas sperta,
Ofte estas lerta.
Kaj spertulo ofte
Estas sukcescerta.*

spiri: Entiri aeron en la pulmojn aŭ eligi aeron el pulmoj.

*Per la kruroj homoj iras,
Per la nazo homoj spiras,
Per l' okuloj homoj vidas,
Per la buŝo ĉion diras.*

stacio: 1 Loko ĉe vojlinio, kie haltas publikaj veturiloj. 2 Loko por konstantaj sciencaj esploroj. 3 Loko, kie funkcias aparatoj aŭ maŝinoj por konstanta servo: Televida *stacio*, Radio-*stacio*.

*Radiostacio informojn dissendas,
Fervoja stacio la tajnojn atendas,
Sciencstacio faradas esplorojn,
Polica stacio popolon defendas.*

stari: 1 Resti sur la piedoj aŭ genuoj. 2 Resti senmove, senflue, senire.

*Kiel lertas la infanoj!
Ili staras sur la manoj!
Iuj longe tiel restas.
Ilin laŭdas samlokanoj.*

stato: Maniero, en kiu io estas: solida, likva, gasa *stato* de materio; malriĉulo en mizera *stato*.

*Tertremo trafis lian fraton,
Kaj malbonigis la vivstaton.
La dom' disfalis, brutoj mortis,
Fajrego donis plian baton.*

東北エスペラント大会日程変更

第 55 回東北大会の日程と会場が変更になった。

日時: 2014 年 11 月 2 日 (日) 午後 3 時 ~ 3 日 (月、祝日) 午後 4 時。

会場: 岩手県民会館、JR 盛岡駅から徒歩 30 分、バス、タクシー 15 分(バスは県庁市役所前下車 2 分。〒020-0045 盛岡市内丸 13 番 1 号 電話 019-624-1171) 宿泊: 盛岡北ホテル (県民会館のすぐそば。〒020-0023 盛岡市内丸 17-45 電話 019-625-2711)

参加費: 一般 4000 円、身障者 2000 円、不在参加 2000 円。

宿泊費 10000 円、昼食代 1000 円。

参加申込: イーハトヴ・エスペラント会 (〒020-0016 盛岡市名須川町 11-18 佐々木律子方、メール mia-kato-kuu.ricu-58@indigo.plala.or.jp)。

振替口座: 02200-1-57913 イーハトヴ・エスペラント会 東北大会と明記して下さい。

主催: イーハトヴ・エスペラント会、東北エスペラント連盟。

下関市の大学キャンパスで講習会

JR 下関駅から山陰線で 7 つ目の梅が峠(うめがとう)駅前にある梅光学院大学のキャンパスで、44 の芸術・文化・研究・福祉団体の「結いの会」が催す集りがあり、エスペラント図書館の新田隆充さんが 5 月 17 ~ 19 日にエスペラント講習をした。本は使わずパソコンや単語カードを駆使して。新田さん手作りのクッキーと紅茶付で 500 円。開催期間中は 60 人が足を止めて話を聴き、受講・聴講は 16 人にのぼった (5 人のエスペランティストを含む)。

クッキーとお茶を飲みながら 30 分から 1 時間、一度に 2 名程度の少人数制だったことも、今回のやり方に合っていたと思う。受講者のうち希望した人には広島エスペラント会から寄贈された『20 のポイントで学ぶ国際語エスペラント入門』を進呈した。

エスペラント図書館に寄贈され登録済みの約 1000 点と未登録分の本をすべて並べても、旧図書館 3 階の極々一部をわずかに専有するにとどまり、まだまだこれからといえる。なおエスペラント図書館事務室及び展示室には 2 階の 206 号室を使用中。講座はこの 206 号室でおこなわれた。[←田平正子・新田隆充]

第 63 回関西エスペラント大会速報

日時：2015 年 6 月 20 日（土）～ 21 日（日）
会場の空きの都合で、やや遅めになりました。
会場：京都市国際交流会館
南禅寺の近くの静かな環境です。

La 63a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo

Dato: 20a kaj 21a de junio, 2015

Loko: Internacia Komunuma Domo de Kioto

ロイ・ビッシュジトさん NHK ラジオ出演

日本盲人エスペラント協会 (JABE) 正会員 ロイ・ビッシュジトさんが NHK ラジオ第 2 「聞いて聞かせて」 5 月 18 日（日）19 時半～ 20 時に出演。再放送 25 日（日）7 時半～ 8 時。 [←町村（本田）照美]

関西エスペラント大会前後の Reza さん

関東エスペラント大会と関西エスペラント大会に招待されたインドネシアの Reza Pahlevi さんは、大会前日の 5 月 30 日に来日。神戸エスペラント会会員の案内で神戸を観光したあと、関西エスペラント大会に参加。大会終了後、奥脇俊臣さんの案内で亀岡へ移動。

6 月 2 日は大本本部を見学し、夜は京都のエスペラント会館で行われた「エスペラントおしゃべり会」に出席した。

6 月 3 日は数人のエスペランティストの案内で京都（二条城、金閣寺）と奈良（大仏と鹿と二月堂、近鉄奈良駅の立飲み）を観光、夜は南宇治コミュニティーセンターで開かれた宇治城陽エスペラント会の例会に出席。翌日京都駅前まで茶道の茶せんと抹茶を買って、関東へ移動した。

KLEG（関西連盟）委員会報告

5 月 18 日 13 時 30 分から豊中市公民館で。出席 18 人、委任 7 人。議長：島谷剛さん（池田）書記：堀田裕彦さん（枚方）。主な報告審議事項は① 2013 年度活動報告、2014 年度活動方針② 2013 年度決算、2014 年度予算③連盟規定類の改訂④役員改選⑤第 62 回関西大会（はりま）⑥第 63 回関西大会（京都）⑦第 46 回林間学校⑧第 101 回日本大会⑨部局報告⑩ロンド報告など。

宮崎エスペラント会が講演会

5 月 15 日木曜日に宮崎エスペラント会の浜田健三さんと荒瀬早幸さんが、宮崎市恒久の南部病院で職員を対象にエスペラントについての講演会。参加者は 20 名ほど。

第 46 回エスペラント林間学校は京都で

毎年恒例の林間学校を今年も開催します。初心者から中上級者までを対象に皆さんが参加しやすい 1 泊 2 日の日程で、通学も可能な会場で行います。また、分科会も募集しますので、ふるって提案してください。

1. 日程：2014 年 9 月 13 日（土）～ 14 日（日）
2. 会場：京都エスペラント会館（京都市下京区西洞院五条上る八幡町 537-6）電話：075-343-3120
3. クラス構成：初級「会話」（Ce Juna さん）、初級「語尾なし単語」（相川節子さん）中級「輪読」（島谷剛さん）、上級「翻訳」（タニヒロユキさん）。() は講師。
4. 主要プログラム

13 日 13 時 受付・開校式

- | | |
|----------------------|---------------|
| 13 時 30 分～ 15 時 30 分 | 学習① |
| 15 時 30 分～ 17 時 30 分 | 分科会① |
| 17 時 30 分～ 19 時 | 各自夕食 |
| 19 時～ 21 時 | 分科会② |
| 21 時～ | 就寝又は Paradizo |

14 日 9 時まで各自朝食を済ませて集合

- | | |
|------------|------|
| 9 時～ 12 時 | 学習② |
| 12 時～ 13 時 | 各自昼食 |
| 13 時～ 15 時 | 学習③ |
| 15 時 | 閉校式 |

5. 参加費

学習 1 コマ 2000 円

分科会だけに参加 1000 円

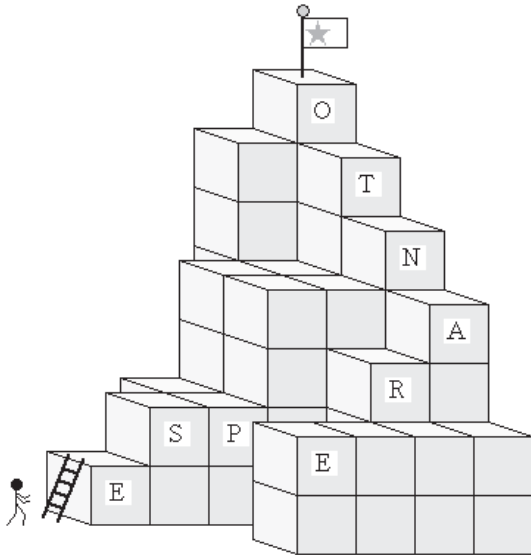
割引：KLEG 会員、遠距離、青年、障害者など。

6. 食事：各自周辺で買って会場でいただきます。
7. 宿泊：各自予約ください。
会場に近い旅館・ホテルは別途紹介します。
8. 主催：一般社団法人 関西エスペラント連盟
9. 申込・問合せ：同上

本誌 8 月号に別刷りの Informilo を挟み込みますので、参照してください。

Enigma

Redakcio



Vi staras sub la labirinto el kuboĵ. Vi povas utiligi la eskalon, per kiu oni povas grimpi nur unuopan nivelon.

Kiom da fojoj minimume vi uzu la eskalon por atingi la nivelon de la verda flago?

Respondu paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retpoŝte al <lamovado@gmail.com>.

La solvo al la maja numero: Petro.

Se Karlo estas mensogulo, li devis mensogi, ke li estas honestulo. Se li estas honestulo, li prave deklaris sin tia. Ambaŭkaze Karlo diris, ke li estas honestulo. Tial Petro mensogis kaj li estas mensogulo.

La ĝustan solvon donis 3 legantoj: 西千寿子, 中村文雄, Kacu.

* Aldono al la solvintoj de la aprila numero: CA.

楽しい作文教室 (37) 成績

17 人の方から応募がありました。() 内は留意事項です。

うん、良いね : Eiko, Ĉielo(kiujn), AG, 水渡, Kiri, CA, Dalpengi.

良いね : T.Ku, Drako(sen ke -us), alfa(selena), ikona(ricikligu), M.H., Fumi, Ivajo(pinglojn), ヒー坊(akzamenon).

もうひといき : Lv-rivero, festo(pinglon).

がんばろう : 無し。

KLEG 事務局だより

★ 5月31日、6月1日に姫路で46年ぶりに開催された第62回関西エスペラント大会で

は、例年どおり KLEG 書店が開設され、221,870 円の売上がありました。どの本がよく売れたかは、次号で報告します。

★書店の開設、運営には、事務局の大西真一さん、大畑賀代子さん、田熊健二さん、東藤薫久さん、図書部の染川隆俊さんのほか、相川節子さん、沖恵明さん、佐々泰弘さん、福本博次さん、藤巻謙一さん、堀田有里さん、吉川奨一さんのご協力を得ました。

★総会で定款が改定され、「賛助会員」の名称が実態にあった「個人会員」に変更されました。また「理事でない専門部長も委員会に出席する」よう委員会規定が変更されました。

KLEG後援会へのご寄付

(2014年5月、敬称略)

匿名	10,000 円
Kacu	5,000 円
清川正義	2,895 円
中道民広	2,580 円
野々村耀	805 円

KLEG後援会にご協力を

関西エスペラント連盟 (KLEG) は、数十年間会費や購読料の値上げをせずに、エスペラント界ではまれな機関誌年12回発行を続けています。しかし、残念ながら会費や行事収入、図書の売り上げだけでは、日常的な経費もまかなえません。しかも、4月からは消費税も増税されました。

もちろん KLEG は日常活動に加え、青年活動支援やアジアの運動支援などさまざまな活動にも取り組んでいます。また、パソコンやソフトの更新も待たなしです。

これらの活動を支援するため、「関西エスペラント連盟後援会」(振替口座 00940-1-26233) へのご寄付をお願いします。今月号に振替用紙を挟みこんでいます。

なお、この振込用紙は、後援会専用ですので、会費や書籍代金の送金などには使わないでください。

訃報

前田米美さん (1920.5.15 ~ 2014.4.6、享年 93 歳)

1934 年に中学校 2 年生で小笠原誉至夫主催の講習会(日本国際協会和歌山支部子供部(国際日曜学校)エス語講習: 講師は広島高等師範学校学生の奥村林蔵)で学ぶ。1938 年和歌山緑丘会設立に参画。戦後緑丘会の活動を再開して、会の中心としてエスペラント講習会を行うなど活躍した。長らく緑丘会の機関誌「Verda Monteto」を編集・発行した。ここ数年は活動から遠ざかり、老人保健施設に入所していた。

Mikspot (当欄は敬称略)

☆ ヨコタ村上孝之『二葉亭四迷 くたばってしまえ』(ミネルヴァ書房、2014年)の「第四章革命と二葉亭」に、「1 エスペラントと平和主義」の節がある。また参考文献の資料一として、二葉亭がポストニコフに寄贈した『世界語』見開きページを紹介。 [←後藤斉]

☆ 高橋新太郎セレクション3『集書日誌・詩誌「リアン」のこと』(笠間書院、2014年6月)に「62『閨秀新誌』と『エスペラント』」。 [←後藤斉]

☆ 宮沢賢治『虔十(けんじゅう)公園林』が株式会社 budori から、日本語、英語、エスペラントの3言語による対訳絵本として刊行された。エスペラント訳は(故)松田周次で、藤巻謙一が補訂 [←後藤斉・柴山純一]

☆ 鉄道ジャーナル 2014-07、77ページにある写真に、釜石線の各駅にはエスペラントの愛称駅名が付されており釜石は「ラ オツェアーノ」日本語にすると大洋だ、という説明がある。 [←山崎基弘]

☆ 朝日新聞5月24日(土)朝刊 Be 版 e5 ページ「元気のひみつ」がヘンリー・ミラーと結婚していたピアニスト、ホキ徳田を紹介。文中に「父徳田六郎さんは国際連盟勤務を経てNHKの解説委員となり、エスペラント語の普及に尽くした。」とある。 [←西千寿子他]

☆ 5月24日(土)付の読売新聞道南版に苦小牧エスペラント会の記事。13日の例会に記者が来て取材した。1ページの半分近いスペースに参加者、教材の写真、エスペラントの解説、歴史、代表者(星田)の写真と活動の説明が出ている。 [←星田淳]

☆ 朝日新聞6月1日の姫路版に「関西エスペラント大会46年ぶりに姫路で開催」として、開会式の写真入りの2段の記事が載った。1日午後1時からの公開番組も「大阪観光大学の橋弘文教授とアレクサンドラ綿貫さんの講演や、シンガー・ソングライター野田淳子さんのエスペラント語を交えたミニコンサートがある。いずれも無料。」と紹介。 [←中道民広]

☆ 先月号で紹介した青年エスペラント誌“Pašo”の第2号“Pašo N-ro 2”が5月末に発行された。新入生紹介、エスペラント語の出会いなどの他、ジブリ映画「かぐや姫の物語」の感想など内容は多彩。PDFで配布 (<http://pasxo.blogspot.jp/>)。

☆ 6月1日付朝日新聞の連載記事「プロメテウスの罠」に、福島で有機農業を続けている宗像幹一郎の記事。「念願の野菜直売店『えすぺり』を開いた。

エスペラント語で『希望するという意味だ』とある。 [←前畑典弘、田平正子]

☆ 大原社会問題研究所雑誌666号(2014年4月号)の中村修『「市民活動資料」の保存・調査・活用をめぐる』で、日本エスペラント学会が「市民活動資料の所蔵機関・団体一覧」の中に。 [←後藤斉]

☆ 総研大ジャーナル第15号の伊藤鉄也(総合研究大学院大学教授)『「源氏物語」の翻訳状況』の一覧の中に「エスペラント(作成中)」とある。 [←後藤斉]

☆ 九州大学大学院地球社会統合科学府の授業科目「市民自治論」の「授業の概要と計画」に「…加えて、地球的市民自治の可能性を探るために、エスペラントの思想と文法を学習する…」と。担当教員は岡崎晴輝教授。 [←後藤斉]

☆ ゼンショー 東京大学・ベトナム国家大学ハノイ校 日本研究拠点プログラムのページの「ハノイ・ロンド」(日本研究・ベトナム研究勉強会)に以下のような紹介。「ハノイ・ロンド」という名称は、梅棹忠夫が京都で開催していた「近衛ロンド」という民族学の研究会に由来します。ロンドはエスペラントで「集い」を意味しており、ベトナム人、日本人、研究者、一般人がともに集い、真剣かつ自由に議論できる場をつくりたいという想いから命名されたものです。 [←後藤斉]

楽しい作文教室 9月号課題 (7月20日締切)

- ①猫は座布団で休んでいる。
- ②彼はコンピューターゲームをしている。
- ③目的を果たすために4人のプレイヤーが助け合う。
- ④なんのためらいもなく、撃たれた仲間を救いに行く。

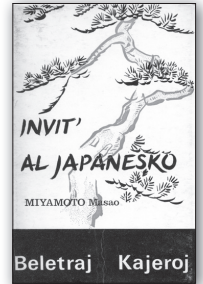
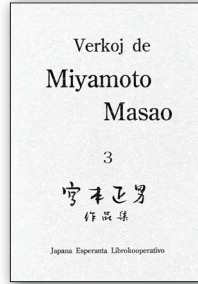
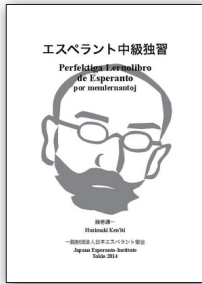
(ヒント) 座布団 kuseno、コンピューター komputilo、ゲーム ludo、プレイヤー ludanto、ためらう heziti、ripozi、plenumi、pafi を調べましょう。日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。

送付先:

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811
塚本 猛

[電子メール] c_tak@esperanto.ne.jp
(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。



★ 新刊・新着 ★

Esperanto中级独習 2160円
藤巻謙一著。長年にわたる通信講座の成果を活かした合理的な練習メニューを満載。『はじめてのエスペラント』『まるごとエスペラント文法』と合わせて三部作がここに完結。例文を朗読したCD(2時間半! MP3形式)付き。B5判、280p。
※CDはMP3形式です。CDを聞くにはパソコンかMP3形式対応のCDプレーヤが必要です。

Konciza raporto pri la detruado de Indio 1800円
ラス・カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』。16世紀「新世界」でのスペイン人征服者たちのすさまじい蛮行を告発し、植民地支配の実態を伝える。岩波文庫に邦訳あり。A5判、106p。

★ 宮本正男の著作 ★

宮本正男(1913~1989)は本誌を創刊し育て上げた人。7月に没後25年を迎えます。数ある著作から、今回は原作と評論を中心に在庫のある本を紹介しします。

宮本正男著作集 第3巻 3000円
芥川龍之介「羅生門」「地獄変」、田宮虎彦「足摺岬」など翻訳とエスペラント原作作品を収録。

宮本正男著作集 第4巻 3000円
年譜、著作リスト、作品(原作・翻訳)の補遺を収録。※著作集第1巻、第2巻は売り切れです。

Invit' al japanesko 300円
原作詩集。Stafetoが出版した記念碑的著作。

Japanaj vintraj fabeloj 100円

青年時代を回想するエッセーと詩。

La morta suito 400円
大杉栄の生涯をオムニバス形式でたどる。

L'omnibuso kun la tri pasaĝeroj 200円
宮本、上山政夫、斎藤英三(挿画)三人の合作集。

Sarkasme kaj entuziasme 500円
エスペラント運動と文学に関する評論集。

日本文学にあらわれたエスペラント 800円
大江健三郎等の作品にみるエスペラントを論じる。

Skiza historio de la utao 500円
古代からの和歌の歴史+「百人一首」(全訳)。

Vivo kaj verkoj de Miyamoto Masao 800円
没後10周年記念追悼文集。Auld、Linsらが寄稿。

★ 好評の Katrina シリーズ ★

La krimo de Katrina 400円

Vojaĝo kun Katrina 500円

Katrina malfruas 500円

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

編集ノート



☆本誌では人名は姓を大文字、名を小文字にするのを原則にしていますが、Rezaさんにうかがうと、Rezaさんのetnoの人たちは姓を持たない、Reza Pahleviの両方を合わせて個人名だとのこと。同じインドネシアでもetnoによっては姓があるが、自分の家は姓はない、とおっしゃっていました。なお、Pahleviは「パフレビ」。hをちゃんと発音するそうです。(島谷剛)

発行所：ラ・モバード社 編集：小西 岳 発行人：北 さとり 定価280円 送料60円 1年3800円 送料共本局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204
電話(06)6841-1928 ファクス専用(06)6841-1955 電子メール：esperanto@kleg.jp
振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ：http://kleg.jp
九州支局：九州エスペラント連盟内 818-0105 福岡県太宰府市都府楼南2-8-7 武藤たつこ方 電話(092)923-2877
中国四国支局：中国四国エスペラント連盟内 734-0041 広島市南区黄金山町7-15 忍岡守隆方 電話(082)286-2745
印刷人：村上 治道 621-0815 京都府亀岡市古世町北古世82-3 株式会社 天声社